

東京工芸大学教職課程 日常の改善の取り組み抜粋例

神奈川・山梨地区私立大学教職課程研究連絡協議会
(関東地区私立大学教職課程研究連絡協議会) 発表より

2022/ 2/26

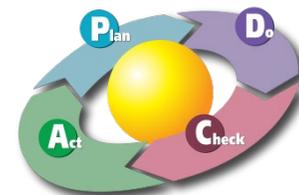
教職課程 自己点検・評価による教育内 容・方法の充実におむけて

- 「教育の方法及び技術」と「情報通信技術を活用した教育の理論
及び方法」の取組 -

KOGEI TOKYO POLYTECHNIC
UNIVERSITY

東京工芸大学 茂野 賢治

教職課程の自己点検・評価と PDCAサイクルの視点



- カリキュラム・マネジメントの視点として、PDCAサイクルを取り入れていこうとする試みが多く見られる。

カリキュラム・マネジメントとは、各学校が教育課程（カリキュラム）の**編成、実施、評価、改善**を計画的かつ組織的に進め、教育の質を高めることを意味する（文部科学省，2017）。

教職課程の
自己点検・
評価へPDCA
サイクルの
視点を生かす。

PDCAその1 (教職課程教育全体を通して)

4年間の教職課程教育を通しての 学習指導案作成と授業実践

1年次・・・学習内容の理解

「教育方法・技術論」



2年次・・・学習指導案への適切な

「各教科指導法」指導・評価内容の記述



3年次・・・模擬授業への還元

「教育実習事前指導」



4年次・・・生徒が知識・技能の活用を
図れる授業実践

「教育実習A・B」 「教職実践演習(中・高)」

本学の教職課程学生の授業準備・
授業実践における課題の克服

各専門教科の学習内容の十分な理解



学習指導案に指導と評価内容を表すこと



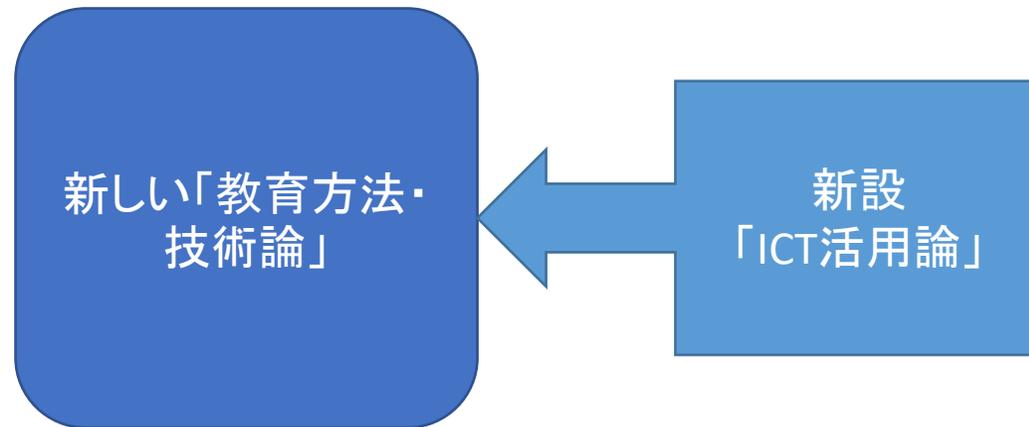
模擬授業において、思考・判断・表現力を
生徒に育成するための発問



知識・技能の指導に偏らない教育実習で
の授業実践

PDCAその2（授業科目「教育方法・技術論」において）

目標：1年次の設定科目「教育の方法と技術」において、「探究的な学習」の内容の理解と同時に、情報通信技術の活用を目指す。

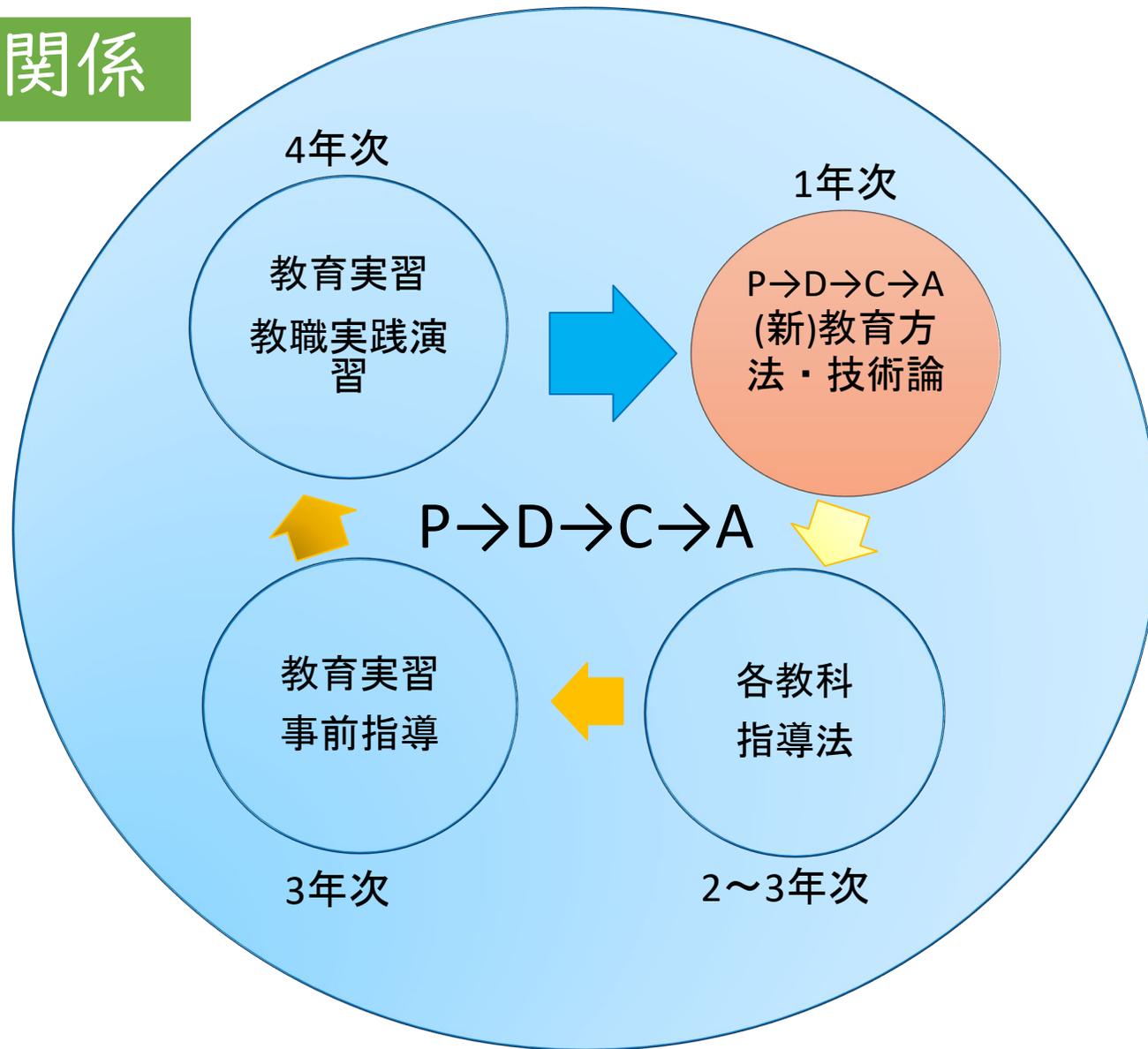


- 本年度2021年度から、2022年度に向け、1年次設定科目「**教育方法・技術論**」（教育の方法及び技術）と新設科目「**ICT活用論**」（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法）の併用したコアカリキュラム、シラバスの作成と授業内容・方法の改善を目指した。

「教育方法・技術論」の 授業方法において工夫した点

- 協働学習における情報通信技術活用の授業体験・・・協働学習の学習形態の一つ「知識構成型ジグソー法」における情報通信技術を活用した授業を学生が体験する（「探究的な学習」の体験を含む）。
- 反転授業・・・授業内容の確保と学修時間の効率の向上。事前課題をもとに、学生が授業で発表、議論していく。
- メタ化（遠隔授業）・・・オンライン授業は、その意義を学生に直接示せる一方で、オンライン授業の課題（説明中心の授業）の克服も視野に入れる必要がある。遠隔授業において学生たちの行う「授業発表」の方法と内容にメタ化の必要がある。

大・小PDCAの関係



ご清聴ありがとうございました。

KOOGEI

東京工芸大学 TOKYO POLYTECHNIC
UNIVERSITY

茂野賢治

東京工芸大学 教職課程担当

E-mail: k.shigeno@eng.t-kougei.ac.jp

Tel: 046-242-9573 Fax: 046-242-3000

100
100th Anniversary